

まことと会便り

2016/5

みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

四月十四日より発生しました熊本地震ですが、まだまだ先行き不透明な状態が続いております。ご家族やご友人に被災された方をお持ちの方々も少なくないと思います。心よりお見舞い申しあげます。

大きな災害が続きます。一つの災害の復興を待たずして次の災害が起こります。また、南海トラフや首都圏での大地震に目が向いていた中、まさかの九州での大地震でした。

一昨年には広島も土砂災害に見舞われました。予想しないときに予想しない場所で予想しないことが起こります。それが自然災害ですし、誰もが被災者となり得るということでしょう。

私たちは今日の生活が明日も続くと思っております。今日の命が明日も続くと思っております。だから穏やかに日々の生活ができます。

しかし、本当は明日どうなるかなんて誰にも分からない、危うい毎日を生きているのです。私たちはこの不安と共に生きていくしかありません。仏さまは、不安や苦しみから逃げることも、生き抜けと示しておいでです。

行事予定



五月 二十五日 光圓寺 春季永代経法曹

二十八日 講師 富島昭圓 師

七月 十四日 まこと会 夏法座

講師 住職

八月 十三日 光圓寺 盆法座

初盆をお迎えになる「家庭へ」

案内します

講師 前任職

十月 十九日 まこと会 念仏奉仕

毎月一回ヨガの会も本堂にて行っております

お知らせ

皆さまもご存じの通り、西本願寺住職の継職が行われ、新しいご門主に専如門主が就かれました。その継職法要に当たる伝灯奉告法要が平成二十八年秋から平成二十九年春にかけて行われます。全国各地よりの参拝が受け付けられます。このご縁に私たちも参拝させて頂きましょう。寺町地区が入る広陵西組では三回の団体参拝を計画しております。泊まりがけのコースや日帰りのコースどちらも企画いたします。皆さまのご都合に合わせてお選び頂きます。

十月の第一回の案内ができました。詳しくは別紙にて。第二回以降はまた後日ご案内いたします。

花まつり

四月八日はお釈迦さまのお誕生日です。

毎年広島市の浄土真宗寺院が集まって、祝賀行事を行っています。

今年は四月五日（火）に祝賀公演会として、評論家の宮崎哲弥氏をお招きしました。講演会と僧侶との対談との二本立てで行いました。

宮崎氏は政治哲学やサブカルチャー分析などを軸にした評論活動をされていて、テレビや新聞でご存じの方も多いと思います。最初の講演の中で仏教書の収集と読みあさることが趣味とおっしゃっていただけあって、対談では広く仏教を扱うお話しから、浄土真宗のお法りのお話しまで会話が広がっていきました。

お釈迦様がお生まれになり、仏教が興ったインドには、現在仏教徒はほんの少数です。インドで仏教が廃れた原因は、原始仏教が葬式などの通過儀礼をしなかったからだといわれています。日本では「葬式仏教」とマイナスイメージでいわれていますが、人が生きていく中で避けることのできない生老病死を扱うとき、「葬式」の意味はとて大まきいのです。亡くなる本人を救うただけでなく、残された人々を救うために仏法は説かれ、それに出会うきっかけとなるものなのです。

座禅などの自力で悟りに近づこうとする宗派と真宗のように阿弥陀さまにお任せする宗派とは、一見全く違うもののようにみえますが、浄土（極楽）へいこうとする道筋が違うだけという見方もあります。

一方は、自己の欲をできるだけ小さくしていき、自我を潰していくために出家し、座禅や山ごもりなどの厳しい修行をしています。

真宗は、阿弥陀さまへお任せするために我執（自分自身の考えや意見にこだわり、執着すること）をできるだけ小さくし、潰していきます。そのために聞法・聴聞するのです。阿弥陀さまにお任せするとはいうことは、全く何もしないわけでは無いのです。

『情我楽清』・・・楽を求めることが苦を生み出します。しかし、我々人間は楽を求める欲から離れることができません。だから、この世での悟りは難しく、阿弥陀さまへお任せするしかありません。自分自身の浅はかさを知らずにつれて阿弥陀さまへの信頼の強さが強くなるのです。



人は、他者の姿を見て自分の姿に気づくものです。葬礼にどれだけ関わっているか？「みとり」をどれだけ経験し「老病死」を見ているか？今まで、形だけで意味のないものと思われていたこれらの経験が、私の中に蓄積されていく。その蓄積が、生きていく上での糧となっていくのです。